

特別寄稿記事 空技廠の思い出 相川荘太郎

コラム

貼るもまた 楽し

実機Photo特集

厚木基地の E-2C

ニューヨーク航空博物館のT-72戦車 実車写真

連載

Big キット 作り直し
(第2回)九七戦闘機 ハセガワ 1/72

48JET50機 No.2
F-84F (モノグラム)

米海軍現用機シリーズ No.2

F-35B (イブロンタミア 1/72)

モーターライズ・プラモデル(第2回)

砲塔旋回戦車

ソビエトの

ソ連戦車 T-55 タミア 1/35

ニューキットレビュー

零式観測機 ハセガワ 1/49

誌上展覧 ホンダフィット (タミア 1/35)

Information

新発売情報

方モクラ展示会情報

Reader's Club

広告

全国モテラズクラブ リンク

サンプル版
各記事の1ページ分だけ
収録しています

日本で初めての スケールモデラー のためのプラモデルweb マガジン「webモデラーズ」は 毎月1日発行
プラモデルの楽しみ方、スケール模型の作り方 塗装のノウハウ等を 写真付き解説記事でお伝えしています。

今月のグラフィア

2009年 3月 Vol.2

コラム
貼るもまた 楽し



実機Photo特集1
厚木基地の E-2C



連載1
Big キット 作り直し(第2回)
九七大艇 ハセガワ 1/72



48 JETS 0選 No.2
F-84F (モノグラム)



米海軍現用機シリーズNo.2
F-35B (イタリタマヤ 1/72)



ニューキット・レビュー 零式観測機 ハセガワ 1/48



実機Photo 特集2
ニューヨーク航空博物館のT-72戦車 実車写真



ソビエトのAFV (第1回)
ソ連戦車 T-55A タミヤ 1/35



モーターライズ・プラモデル(第2回)
砲塔旋迴戦車



誌上個展
ホンダフィット (タミヤ 1/24)

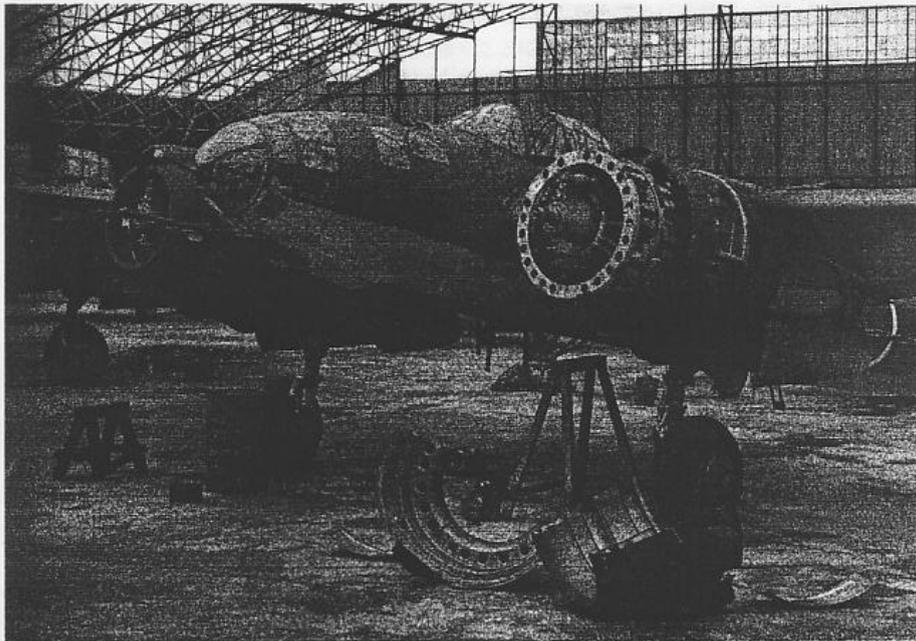


特別寄稿 空技廠の頃の思い出

相川荘太郎

空技廠の頃の思い出」は 相川荘太郎さんが 空技廠に在籍された頃の体験を平成13年に 横浜ひやめし会の会報増刊としてまとめられた文章です。貴重な体験ですので、お許しを得て 本誌に掲載させていただきました。

空技廠の頃の 思い出



相川荘太郎

コラム "貼るもまた 楽し"

by 田口 博通 Hiromichi Taguchi



幼少から プラモ作りを始めて ウン十年経つ方も たくさんおられよう。プラモ作りを長く続けていると 見果てぬ夢か、実現できそうな夢か とにか 願望を持つようになるものだ。

私の場合、その一つが 塗装バリエーションを ずらっと並べてみたいという夢である。Bf-109をスペインからブリテンまで並べるとか、A7コルセア全VA揃いいぶみとか、ファントム全VFとか、見果てぬ夢はつきない。

趣味が高じて 別売りデカールをたんと買い込み、時々そのデカールを虫干しを兼ねて出してきて、日なたで眺めてほくそえむ。ずらっと並んだ姿を妄想する、ああ至福の時である。

デカールは嫌い、手書きでないとだめという方もおられようが、私はデカールが大好きである。妄想に終わるかに見える夢の続きを助けてくれる

たとえへたでも 手を止めないで動かし続けてさえいれば、到底 自分の力では無理だと思ふことを えらく簡単に実現させてくれる救世主なのだ。

私の場合、そもそもキットにデカールが入っていなければ、1機たりとも完成できない。だから その破壊的な威力は大きい。最初から マーキングまで手書きができる子供なんてどこにもいなかった。

考えてみると 私がプラモ趣味を続けていられるのも デカールのおかげである。ああ デカール様様である。

早期警戒機 USNの E-2C

今回は 1985年の厚木基地祭で公開された E-2C VAW-115 USS.MIDYAYの NF-602 SN160992 である。
当時はデジカメがなく もちろん銀塩写真。今回はスキャナーでJPEGに落としている。

前からの全景
胴体上部に大きな回転式のレドームを積んだインパクトのある機体形状である。
早期警戒機は常にその時代の最新エレクトロニクスの集合体で、
探知性能、信号処理、通信性能ともアップデートが重ねられている。



左側面 全長17.6m 全幅 24.6m 総重量 23.4トン 大きな機体である。



T-72

T-72は、1971年にソ連で開発された主力戦車である。それがなぜニューヨークのイントレピッド博物館の前にM60パットンと並んで展示されているか不思議な感じがする。おそらく、技術的にアメリカのM60パットンやドイツのレオパルド、イギリスのチーフテンと同じ第2世代にあたるからだと思われる。車高が低くM-60に比べるとコンパクトな戦車である。

塗装はグリーンがかった灰色というべきか。形容が難しい。

主砲は 125mm2A46滑腔砲である。有効射程距離は1800~2000m。戦車砲弾以外にも射程5000mの9M119または9K120対戦車ミサイルを発射可能

回転ドラム式の水平装填式自動装填装置「ウセトカ」を搭載しているために車内の居住性は悪い。

(撮影時期は 2005年 4月)

T-72 側面 全景 丸の中には2 車体番号は577



砲塔



Big キット作り倒し (第2回) 九七大艇 ハセガワ 1/72

by 田口 博通 Hiromichi Taguchi

押入れを占領するBigキットを作り倒し パーンとスペースを空けようというBigな連載コーナー。1/32と限らず、巨大な箱ならなんでも取り出します。デビモンサンにモスポールされた可哀想なBigキットが再び、皆様のお役に立ちます。

第2回目は ハセガワの 九七大艇。
正式名称は 海軍九七式飛行艇二型 (H6k5)。
1/72ですが、翼長54cm、全長36cmと 完成すると 辺りを圧倒する巨大さがあります。箱もこれまた大きい、

1970年に発売され、約40年経っていますが、大きすぎるゆえか、それとも張り線もあり製作に手間がかかるゆえか？クラブ展示会でも 完成品をほとんど見かけないキット があります。

大きさの割りに パーツ点数は95と 比較的少なく、凸リベット、凸パネルラインが端正なキットですが、高翼のため、構成が複雑です。

それではモスポールを解いて、作り倒して見たいと思います。

参考文献 MA 1970年1月号 3面図
MA 1970年4月号 製作記事)



実機について

九七大艇は、川西航空機 (後の新明和) が生んだ 傑作飛行艇である。原型は1936年に初飛行し、当初は 九試大型飛行艇と呼ばれていた。現在のPS-1のご先祖様に当たる飛行艇である。設計当時、最大規模の飛行機で、なんと全幅40m、全長25m、発動機は 三菱金星五一型1300馬力を 4発装備していた。巡航速度259km、航続距離は 6770kmと 長大であった。この特性を生かして長距離哨戒や、

索敵に使用されていたが、低速のため、損害も多かった。179機生産されたうち、終戦時には ほとんど残存していなかった。搭乗員は毎回 死を覚悟して乗ったと聞く。戦時とはいえ、ご家族の心情 いかばかりかであろう。

民間でも 大日本航空で 旅客機として 18機が使用され、「川西四発飛行艇」と親しまれ、フィリピン、インドネシア、シンガポールへと西南太平洋方面を飛び回っていた。



F84F (モノグラム 1/48)

by 田口 博通 Hiromichi Taguchi

第2回目は アメリカの F84F サンダーストリークである。モノグラムから実感たっぷりのキットが発売されている。発売は1984年だから25年ほど前になる。モノグラムが 油の乗り切っていた時代で 48で名作F4 ファントムとか、F105などを矢継ぎ早にリリースしていた時代だ。F84Fもこの流れで発売されていたもの。部品点数は少ないが、この実感だからたいしたものである。スタイルはこれぞF84Fという感じをかもしだしている。

パネルラインは凸ラインだが、今回は凹に彫りなおさず、そのまま使用した。完成すると全く気にならない。

コクピットはバスタブで計器パネル、シートとも実感のあるモールド。

脚も秀逸な出来だ。武装は燃料タンクが4本付属する。



F-35B (イタレリタミヤ 1/72)

by 横田の角さん

厚木の助さんから助っ人を頼まれた 横田の角でございます。助さんの方は小股の切れ上がった艦載機にぞっこん、それも退役した年増好きのようであります。が、こちとはというと 最新鋭機が陸釣り専門。最新鋭機の中には F-32のように どうみてもブス顔で、オーディションで即却下になったようなものもありますが、ステルス系は ぞくっとくる大人のお色気いっぱい大好きであります。

今月のお題はというと、岩国海兵隊のVMA-542に配備されたばかりの最新鋭機 F-35Bであります。ごゆっくりとおつきあいの程を。



実機について

F-35はロッキードマーチン社製で、形態的にはF-22ラプターの流れを汲むステルス戦闘機でありまして、40,000lb級という単発戦闘機としては 世界最大の推力を持つエンジンF135ターボファンを搭載しており海軍型CTOLのC型と海兵隊型STOLVのB型があります。

B型は垂直離着陸も可能とするため、可変式エンジン排気口方式で、なんと排気口がグルンと真下に向けられるようになっていきます。また、胴体中央にリフトファンを装備し、安定したホバリングと垂直離着陸を可能としております。

当初は2008年からの配備開始を目標に、量産試作機の開発計画が進んでおりましたが、2008年から数年間、アメリカを震源とした全世界を巻き込む大不況があり、開発計画は大幅に遅れました。

このため、やっと、2012年に海軍向けのC型の量産が開始され、米海兵隊では2014年からハリアーに代えて垂直離着陸可能なB型の実戦配備が進んでおります。

米海兵隊のB型の主脚は当初 A6イントルーダーのものが流用されておりましたが、STOLV型の大きな沈下率に耐えるため、新設計のものが採用されています。F-35は当初の重量見積もりが甘く、重量増加のため機能を削るなど開発に相当苦勞し、結局、B型は、総ウエポン量15,000lbでC型よりも20%くらい少なくなっています。

また、B型はイギリスでもハリアーGR5/7の後継として当初150機導入の予定でしたが、予算難と毎度おなじみの機体価格の高騰により、調達数の大幅な削減が予想されているのが残念なところです。

海軍のC型の方はというと、空母着艦の必要上、アレステイングフック装備の他、主翼は面積を34%増積し、折りたたみ翼となり、外翼にもエレベーターを装備しています。水平尾翼も大型化し、高揚力装置を各所に装備し、低速安定特性を向上させています。B型に比べると一回り大型になった印象です。



モーターライズ・プラモデル (第2回) 砲塔旋廻戦車

by タンクダンク

1/35 レオバルド2 タミヤ リモコン戦車



左右とも バンダイ 1/24 M60A1 リモコン戦車



先月は 動いてこそ戦車ということで、モーターライズリモコン戦車の魅力がテーマだったが、今回は「モーターライズで砲塔旋廻をぶちかまそう」というお題である。

1/35 キングタイガー MM 砲塔旋廻

もう10年以上前のことであるが、1990年代半ばの静岡の合同作品展で 私が所属するクラブ展示の中で1/35キングタイガー大ジオラマというテーマがあった。ヨーロッパの街角を再現し、そこにキングタイガーを10台くらい置きましょうという大企画だった。

その中に、私の担当で出品したのは、「人寄せパンダ役」。人は「光モノ」か「動きモノ」に強く反応する性質がある。タミヤ1/35の3色迷彩のキングタイガーの砲塔が 電動で右に左に旋廻する。すなわち 散髪屋の看板と似たようなものだ。

タミヤの垂直ギアセットを組み込み、タイマーICとリードリレーを使った回路で モーターの回転方向を10秒ごとに切り替える簡単なものだ。もし私が中学生の時だったら、模型とラジオ」を参考に回転カムスイッチでモーター逆転をさせていたに違いないが、いずれにしても、自称エンジニアの私にとっては 赤子をひねるようなもの?であった。

タミヤMM 1/35 キングタイガー の砲塔にモーター とギアを仕込み、砲塔旋廻に改造。モデルはMMで 別売リプラキャタピラ使用。下回りは全く動かず、走行はできない



T-55A タミヤ 1/35

by タンクダンク

この連載について

この連載は ソビエトの戦車を 毎月 1機種ずつ、楽に作れる手間のかからないキットを選び、できるだけストレートに製作してコレクションしてみましょう！ というコーナーである。1年で12台完成のはずだから、気がついてみれば ソ連戦車はほとんどコレクションできた！ ということになるはずであります。

現代の戦車プラモは キャタピラも含め、全部の部品を接着しただけで 戦車の独特のスタイルが楽しめる。その後で全体塗装しても 結構満足な具合に仕上がる。これって楽しいことだと思いませんか？

第1回目は T-55A。1/35では 過去にエッシー、トランベッター、スキフと発売されていたが、組立づらかったりと、今一つの出来だった。

そこに2003年正月にタミヤから真打登場。その タミヤT-55A 1/35を取り上げる。今回は ソビエト軍仕様とし、対空機銃を装備しないバージョンをストレートに製作した。



実車について

ソビエトが大戦後、T-34の発展を極めた形として開発したのがT-54とその改良型 T-55である。戦闘重量はM48パットン47.6トンに対し、T-55は36トンと3/4の軽量で、全長6.4m全高2.4mと被弾性に優れたコンパクトな車体と半球形の砲塔に、55口径100mm砲を装備し、当時の西側各国の標準だった90mm砲を威力で凌駕した。(自衛隊の61式戦車も90mm砲。)

T-55はT-54のエンジンを強化し、弾薬搭載量を34発から43発に増加している。1960年代初頭に登場し、ソビエトだけでなく、チェコやポーランドでもライセンス生産され、共産圏各国にも輸出され、シリーズで10万台に達する 大ベストセラーとなった。現在でもまだ中東や東欧で使用続けられている。

実はT-55を一躍有名にしたのは1960年代後半のソ連のチェコ進攻で、自由化しようとしたチェコをソ連がいきな(T-55で蹂躪し、「連帯」による自由化運動はあえなく踏みつぶされてしまったのである。当時は毎日のようにテレビでT-55が進撃する姿が報道され、高校生だった私には とはいえ 後部の2個の補助タンクと砲塔の主砲と連動する大きな赤外線ランプが特徴的でカッコよかったものだ。

しかし、第1世代に属する戦車なので、中東戦争では、第2世代のイスラエルのメルカバには歯が立たず、ケチョンケチョンにやられてしまい、多くの残骸をシナイ半島にさらす哀れなことになった戦車でもある。

ニューキットレビュー 三菱 F1M2 零式水上観測機11型 (ハセガワ 1/48)

by 田口 博通 Hiromichi Taguchi

ニューキットレビューのコーナーは WEBマガジンの即時性を生かし、市販品の購入後、どの雑誌よりも もっとも早い新製品レビュー報告の実現を目指しています。

先月のレビューは グラマンEC-2 ハセガワ1/72 組み立て易い決定版キットでした。今月は 待望久しい 1/48 零式水上観測機で、ハセガワからシャープな新金型キットが登場しました。果たして その出来は？

実機について

三菱が佐野栄太郎技師を主務者とし、愛知、川西との競争に勝って、昭和14年10月に海軍に正式採用されたのが零式水上観測機である。

戦艦に搭載し、弾着高空観測を任務とする機体に求められた性能は、高高度で弾着観測が可能であること、敵戦闘機に匹敵する格闘性能を合わせもつということだった。

このため、三菱は格闘性能がよい複葉形式をあえて選び、当初は 翼厚10%の薄翼、アスペクト大の楕円平面翼であった。旋回中の強力な自転現象に苦しみ、対策として、直線テーパー翼に大改造し、主翼に翼端ネジリ下げを実施、上半角を増やし 上翼が $4^{\circ}18'$ 下翼が $4^{\circ}30'$ となり、最終的に現在の主翼形になった。

また、方向安定性不足のため、垂直安定板を85%増積し方向舵も30%増積したので、最終的に大きな垂直尾翼となった。

外形で特徴的なのは 抵抗を減らすため、翼間支柱が1翼一本となっていることである。このため、主翼桁間隔が狭く、翼ネジレ強度を海軍から心配された。

主翼張り線は 2本式で、前側が22Fの気流型(流線形)飛行張り線、後ろ側が14Fの気流型降着張り線である。その間にジュラルミン管の張り線振れ止めがついている。主翼は折りたたみ可能である。

エンジンは瑞星13型。潤滑油冷却器を主フロントの前脚に収容させ、空気抵抗の少ない機首形状となった。

胴体は後部が金属モノコック、前部が鋼管溶接構造である。

任務上、第一の兵器というべき通信機は96式空2号無線電信機を搭載した。出力40W、短波の場合500海里に連絡可能。

武装は 前方にピッカー九七式7.7mm三型改一ベル給弾400発を2丁装備。後方は92式7.7mm旋廻機銃円盤型弾装が装備された。

格闘性能を重視した海軍最後の複葉機であるが、単翼機の技術を取り入れて、設計されているため、軽快な運動性を持つ洗練されたシャープな外観となっている。



誌上個展

ホンダフィット 1/24 タミヤ

by ハートハウス / ミートボール会員

2001年6月にデビューしたホンダのフィットには、ブラック、ホワイト、レッド、ブルー、パステル調と1種類のボディカラーがある。

その中で私が選んだカラーはレッド。街を走るフィットのレッドは気品や躍動感が感じられ制作意欲を掻き立てられた。

塗装は、レッドにシルバーを少々混ぜてみた。制作に苦労したのは、ウインドガラスの塗装だった。20枚のマスクシールを内側と外側にずれの無いように貼り付けの作業は以外に時間がかかった。完成時には十分な満足を得ました。

